

令和4年度 中国地方整備局
コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

1. 開催日時 令和5年3月7日(火) 13:30~14:55

2. 開催場所 中国地方整備局 建政部 3階会議室

3. 委員 委員長 大本和則 弁護士
委員 磯村定夫 (一社)中国地域ニュービジネス協議会参与
委員 瀬戸哲也 時事通信社広島支社長
委員 平野実 県立広島大学教授
委員 山田希恵 公認会計士

4. 議事

令和4年度中国地方整備局コンプライアンス推進計画の実施状況について
令和5年度中国地方整備局コンプライアンス推進計画(案)について

5. 委員からの主な質問・整備局からの回答

質問① eラーニングによる出前講座の実施について、アンケートによると講師に直接質問できない、リモートワークでは通信が途切れて視聴できないなどの感想があったが、課題の改善方法についてどのように考えているか。

回答① 質問ができないという課題については、eラーニングを集合形式やweb会議方式で行うハイブリッド方式で実施し、そこに所属の幹部や我々コンプライアンス担当が参加し質疑応答を行うことなどを検討している。また、通信が途切れる課題については、通信環境そのものの改善は難しいが、講義動画コンテンツ容量の軽量化による改善を検討している。

質問② 出前講座のアンケートの回答に、問題点など課題についての記載が少ないと感じたが、課題をきちんと把握できるようアンケートを工夫することができないか。

回答② 集合形式やweb会議方式で実施する際、所属の幹部や我々コンプライアンス担当から、アンケートに率直な意見をいただくようお願いするような取組みを考えている。

質問③ 出前講座をeラーニングで実施した場合、出張に係るコストが削減されるなど副次的な効果があると思うが、全体としてコストはどのような状況か。

回答③ 試算はしていないが、eラーニング用のコンテンツは職員が既存のソフトウェアにより作成しており、コストはかかっていない。一方、昨年度までは、2、3人の講師が複数回中国管内を出張していたため、その費用は削減されていると料する。

質問④ 個別の取組み毎にアンケートが行われているが、コンプライアンス全体を通してアンケートを行っていることはあるか。

回答④ コンプライアンス全体を通してのアンケートは数年おきに実施することとしている。

質問⑤ eラーニングによる出前講座について、動画を実際に視聴していないのに受講完了とすることが危惧されるため、受講状況をモニタリングし、受講時間が短いことが確認された場合は注意するとともに、一定の条件をクリアしなければ受講完了とにならないような設定にするなど、実効性を確保するような取組みを検討されたい。

回答⑤ 受講時間はeラーニングシステムで確認できるため、あまりにも短い時間であれば指導を行いたい。また、動画を区切り、問題に解答しなければ次に進めない条件設定とするなど検討を行っている。

質問⑥ コンプライアンス・ミーティングのテーマ設定について、公務員の不祥事事例を参考にされていると思うが、民間の不祥事事例でも参考になるような事案があればミーティングテーマとして取り上げるのはどうか。

回答⑥ 民間の不祥事事例も公務に通じるようなものがあればテーマとして取り上げることを考えたい。

質問⑦ 情報管理の徹底について、厳しくされていると思うが、最近はSNSやLINEなどを通じて情報が漏洩してしまうことがある。携帯電話等の使用を禁止することはできないが、使用方法についてルールはあるのか。また、そういったツールの取扱の注意点等について、職員研修に組み入れることも重要ではないか。

回答⑦ 中国地方整備局情報セキュリティポリシーにより規定している。なお、入札契約関係の情報については厳格に情報管理しており、予定価格については限られた職員しか扱えないことになっている。情報セキュリティー関係では、かなり取組を行っているつもりだが、ご指摘の点も踏まえ今後も引き続き考えていきたい。

質問⑧ 他省庁や他の整備局から異動してくる職員がいれば、前の職場での取組みを聞くなどして参考とすれば良いと思うがどうか。

回答⑧ 当整備局内に全国異動している職員がいるので、他の整備局の情報はある。また、地方自治体からの出向者や、他省庁との人事交流職員もいるので、そういった職員の意見を聞くことは出来る。

扱う予算が大きいということもあり、コンプライアンスの意識は他省庁に比べ国土交通省は高いと考えており、情報管理も厳格に行っている意識はあるが、謙虚にいろんなことを参考にしていきたい。

6. 委員からの主な意見

- eラーニングによる出前講座について、集合形式で行い、意見交換を併せて行うなど工夫して実施すること。また、受講状況のモニタリングなど実効性あるeラーニングのあり方を検討すること。
- 取組みに関するアンケートについて、課題をきちんと把握できるようアンケートの取り方を工夫すること。
- 情報管理について、通信機器の取扱いも含め、更に情報管理を徹底する必要があること。
- コンプライアンス・ミーティングのテーマについて、公務員の不祥事事例に留まらず、参考になる事例があれば民間における不祥事事例を含めること。
- コンプライアンス意識の醸成のため、他省庁や他の地方整備局のコンプライアンスに関する取組みの情報を参考とし、可能であれば合同でコンプライアンス・ミーティングを実施するよう検討すること。